

「価値ある安さ」

株主のみなさまへ

第66期 株主通信

2014年4月1日～2015年3月31日



普段の暮らしをより豊かに・より便利に・より楽しく

ディスカウントストア

MrMax

証券コード 8203

ごあいさつ



株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年3月31日をもちまして、第66期(2014年4月1日から2015年3月31日まで)が終了いたしましたので、ここに当期の事業の概況等をご報告申し上げます。

代表取締役社長
平野 能章

第66期の業績について

当事業年度は、4月からの消費税率引き上げや、円安による物価高などから個人消費が落ち込むなど、消費環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、「普段の暮らしをより豊かに、より便利に、より楽しく」を経営理念とする当社は、お客様に対して継続的に「価値ある安さ」を提供するべく、購買頻度が高い普段の暮らしの商品について、年間を通じて低価格を実現する取り組みを強化してまいりました。また、近年増加する訪日外国人観光客の買い物需要への対応や、インターネットを活用した情報配信を開始するなど、お客様の買い物の利便性を高める取り組みも行ってきました。当事業年度の新規出店は、従来のMrMaxの品揃えに生鮮食品を加えた「スーパーセンター」業態において3店舗を開店し、さらに小商圈・高来店頻度型の小型店舗「Select」業態で2店舗を開店しました。これにより、当事業年度の店舗数は60店舗となりました。

当事業年度の業績に関しましては、ここ数年続いてきた利益水準の低迷に歯止めを掛けるべく、多額の損失処理に踏み切ったという点で当社にとって大きな意味を持つ決算となりました。当社では、売上高営業利益率がここ数年、1%弱と低調に推移してきたことに加えて、増税後の反動や天候不順から想定以上に売上が落ち込んだことで、上期決算で上場以来初の営業赤字となりました。この上期決算を重要な

課題と捉え、昨年末より外部専門家も活用しながら中期経営計画の策定を進めてまいりました。当事業年度の決算にも同計画の骨子が鮮明に反映されております。

まず、当事業年度の売上高ですが、増税後の反動や夏季の天候不順等の向かい風はあったものの、5店舗の新店効果や下期の戦略的な売価見直しによる集客増もあって、営業収益は1,142億62百万円(前期比1.0%増)と増収となりました。

利益面においては、収益性低迷の一因となっていた滞留在庫に対し、(a)期末に商品評価損約7億円を計上したことが大きく反映し、経常利益は7億83百万円の赤字となりました。

当期純利益は29億82百万円の赤字であり、経常損失と比べて大きな金額になっております。これについても、店舗関連で大きく2つの特別損失を計上したことが主な原因です。まず、(b)収益性の低下が認められる店舗に対し、てこ入れ策を実行する一方で、「固定資産の減損に係る会計基準」を適用し、9億17百万円の減損損失を計上したこと。もう一つは、(c)

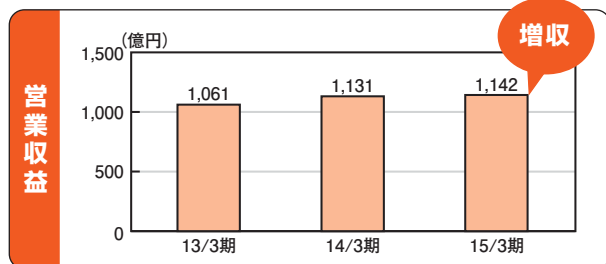
今後の収益回復が容易でないと判断した店舗に対し、将来の店舗撤退時に発生する損失を先取りする形で8億82百万円の店舗閉鎖損失を計上したことで

一連の損失処理(a,b,c)は総額25億円に上り、短期的にみれば確かに厳しい内容ではあります。しかし、これらの損失処理は、67期以降の財務リスクを大幅軽減することはもとより、中期経営計画に掲げた施策を進めるためには必要不可欠な対策であり、「将来の収益力向上に繋がる戦略的な布石」と考えております。

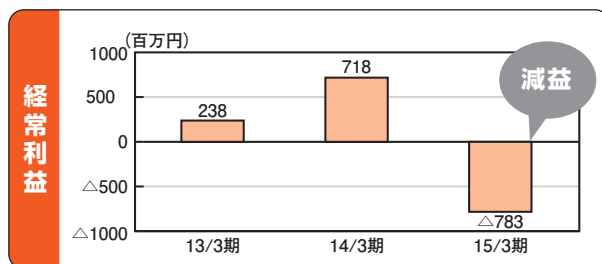
当事業年度の決算を受け、配当につきましては、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきますことを深くお詫び申し上げます。

中期経営計画に沿った施策を実行することで、全社一丸となって収益力向上に取り組み、早期の復配を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



※営業収益(売上高+不動産賃貸収入+その他営業収入)



中期経営計画

2016年3月期-2020年3月期 (67期-71期)

「価値ある安さ」と「迷わず・悩まず買える売場」の実現のために

当社は、中期経営計画を策定し、日々の買い物の意思決定者である「主婦」をターゲットに、総合ディスカウントストア本来の「安さ」と、「迷わず・悩まず買える売場」づくりを推し進めることで、お客様のご支持をいただける店づくりと収益性の向上に取り組んでおります。

そして、3年後の2018年3月期に、営業利益率2% (22億円)、計画最終期の2020年3月期には、営業利益率3% (36億円) を目指します。

この方針を実現するために、以下の施策を実行いたします。

■ 営業利益率目標

← 筋肉質な事業構造への転換期 → ← 飛躍期 →

	15年3月期 実績	16年3月期 予想	18年3月期 目標	20年3月期 目標
売上高	1,096億円	1,100億円	1,100億円	1,200億円
営業利益高	▲8.7億円	5億円	22億円	36億円
営業利益率	▲0.8%	0.5%	2%	3%

施策 1 商品改革

- 従来からの強みである「価値ある安さ」は継続
- 迷わず・悩まず買える(買い物時間の節約) 売場づくり
- 店の代名詞となるような「核」売場の構築

前準備として、2015年3月期には売上貢献度の低い商品について商品評価損を約7億円計上し、その在庫の消化も順調に進めております。

また、2016年3月期のスタート時より、まずは客数の多い食品部門とHBC部門を先行して、売れ筋に絞り込む実験に着手しており、新しい提案商品の導入に向けた売場スペースの確保を進めております。

この実験をベースとして、全部門に拡大していく計画です。



施策2 オペレーション改革

- 棚割改善と厳格な発注ルールによる在庫適正化
- 店舗のあるべき状態を決め、非効率な作業を削減
- 店舗のマネジメント改善と人材育成

現場での作業調査とその分析を通じて、商品補充による作業負荷の増大と店舗マネジメント水準のバラツキなどの課題が明らかになりました。

まずは先行して、ここ数年で急激に売上を伸ばし、物量の8割を占めるまでになった食品部門とHBC部門の商品補充に係る作業負荷を軽減してまいります。



施策3 ディスカウントストアの基本形の再構築

- 利益貢献度の低い店舗のタイムリーな改廃
- 早期に投資回収が可能な総合ディスカウントストアの基本形の再構築

2015年3月期には、既存店舗に対して、将来の減損処理や撤退時の発生費用を先取りする形で、あわせて約18億円の店舗関連損失を特別損失に計上し、将来の財務リスクを軽減させております。

まずは一般管理費用の見直しや、売場の配置・面積配分が適切でない店舗の改装を実施してまいります。



サービスの拡大

■ インターネットを活用した情報サービスの拡大

2014年10月より、新たなサービスとしてスマートフォン用アプリ「LINE@」や、お料理レシピの人気サイト「cookpad」を利用した情報提供を開始いたしました。

「LINE@」では、チラシやおすすめ商品の情報をタイムリーに配信しております。また、「cookpad」では、価格の変動が激しいために従来のチラシへの掲載が難しかった生鮮食品のお買い得品やタイムセールの情報をリアルタイムに配信できるようになりました。

今後も、お客様の来店につながるような、利便性の高い情報サービスを積極的に提供してまいります。



■ 訪日外国人向けサービスの開始

2015年1月より、近年急激に増加している訪日外国人観光客の取り込みを目的に、九州内の6店舗について、免税販売対応を開始いたしました。

2014年10月の制度改正にともない、免税対象商品が、化粧品や食品などの消耗品にも拡大したことから、総合ディスカウントストアとして「安さ」と「充実した品揃え」を武器に、訪日外国人の方々にも



喜んでいただける店づくりを目指しております。

免税対応とあわせて、外国語による売場表示や、無料Wi-Fiの設置、銀聯カードやシンハンカードでの支払いに対応するなど、買物環境の整備を実施しております。

今後も、さらなる品揃えの充実、便利なサービス・ストレスのない買物環境を構築し、順次、対応店舗を拡大してまいります。

社会貢献

■ チャリティTシャツを販売

今年で5回目となる、地元九州のクリエイター集団K-ADCとの協同プロジェクト「RESCUE T-SHIRT PROJECT」。

多くのお客様にご賛同いただき、過去4回で合計約18万枚のTシャツを販売し、売上の一部を子供地球基金や東日本大震災の義援金として寄付いたしました。昨年はこれまでの活動が評価され、福岡県主催の「ふくおか共助社会づくり・地域貢献活動部門賞」を受賞いたしました。

今年も熱い想いをこめた30種類のメッセージTシャツ・限定8万枚を、MrMax全店にて販売し、売上の15%を東日本大震災の復興を目的として、日本赤十字社に寄付いたします。 ※チャリティTシャツは予定量が終了次第、販売を終了いたします。



■ 環境への取り組み

2014年11月に、海上輸送を通じてCO₂削減に貢献している企業として、国土交通省が推進する「エコシップマーク認定事業者」に選定されました。

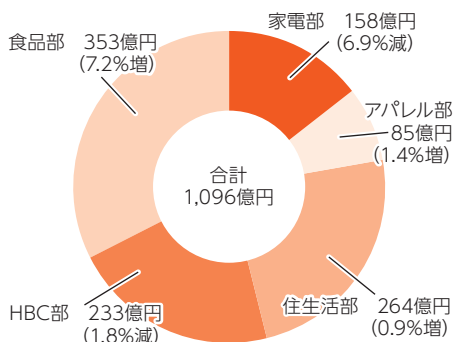
また、2015年4月からは、CO₂削減と環境保全を目的にレジ袋の無料配布を終了し、お客様と共にマイバッグ推進運動を開始いたしました。

今後も、事業活動を通じ、省資源・省エネルギーなどの環境保全に努めるとともに、地球環境への配慮、廃棄物の削減を通じ社会に貢献してまいります。



商品部門別売上高

()内は前期比増減率



(取扱商品)

家電部	家電
アパレル部	衣料、シューズ、服飾雑貨、時計
住生活部	ペット用品、文具、玩具、自転車、スポーツ用品、カー用品、園芸・DIY、台所用品、日用雑貨、インテリア・収納
HBC部	紙綿、洗剤・化粧品、医薬品
食品部	食品



ポイント解説

商品部門別の売上高状況

スーパーセンター業態の店舗数増加にと
もない日配品・加工食品が好調な食品
部門や、新しい品種を拡大しているスポ
ーツ用品・収納用品が好調な住生活部
門が売上を伸ばしました。一方で、消費
税増税前の駆け込み需要の反動や夏季の
天候不順の影響が大きかった家電部門
やHBC (Health and Beauty Care) 部
門が売上を落としました。

損益計算書 (要旨)

(単位：百万円・百万円未満切捨)

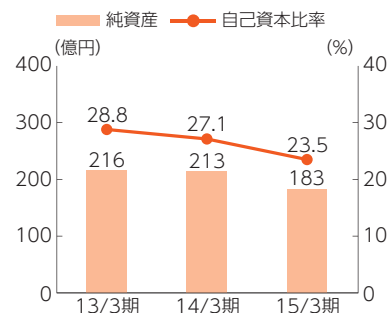
科 目	当期 2014年4月1日から 2015年3月31日まで	前期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで
営業収益	114,262	113,111
売上高	109,608	108,478
売上原価	86,630	84,946
売上総利益	22,978	23,531
不動産賃貸収入	4,218	4,269
その他の営業収入	434	364
営業総利益	27,631	28,165
販売費及び一般管理費	28,507	27,529
営業利益又は営業損失 (△)	△ 876	636
営業外収益	453	422
営業外費用	360	340
経常利益又は経常損失 (△)	△ 783	718
特別利益	94	157
特別損失	1,886	434
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	△ 2,574	440
法人税等	408	373
当期純利益又は当期純損失 (△)	△ 2,982	67

キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円・百万円未満切捨)

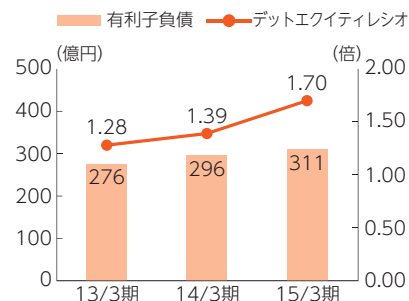
科 目	当期 2014年4月1日から 2015年3月31日まで	前期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,488	4,436
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,406	△ 5,105
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,133	1,545
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 10	1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 794	878
現金及び現金同等物の期首残高	2,692	1,814
現金及び現金同等物の期末残高	1,897	2,692

■ 純資産・自己資本比率



自己資本比率=自己資本(純資産)/総資産×100

■ 有利子負債・デットエクイティレシオ



デットエクイティレシオ=有利子負債/純資産

■ 貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円・百万円未満切捨)

科目	当期 (2015年3月31日現在)	前期 (2014年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	14,621	16,215
現金及び預金	1,897	2,569
売掛金	1,544	2,641
商品	9,045	8,945
その他	2,132	2,059
固定資産	63,468	62,591
有形固定資産	49,591	48,356
建物及び構築物	17,721	17,121
土地	27,167	27,204
工具、器具及び備品	3,094	2,720
その他	1,607	1,310
無形固定資産	171	224
投資その他の資産	13,705	14,010
敷金	4,802	4,716
差入保証金	6,767	6,463
その他	2,135	2,831
資産合計	78,089	78,807
負債の部		
流動負債	29,777	29,358
支払手形	912	6,109
買掛金	7,646	8,956
1年内返済予定の長期借入金	10,750	9,065
未払金	2,690	2,023
その他	7,778	3,202
固定負債	29,972	28,083
長期借入金	20,349	20,078
長期預り敷金	3,509	3,600
長期預り保証金	1,162	1,466
その他	4,950	2,939
負債合計	59,749	57,442
純資産の部		
株主資本	18,204	21,349
資本金	10,229	10,229
資本剰余金	9,951	9,951
利益剰余金	622	3,766
自己株式	△ 2,598	△ 2,598
評価・換算差額等	135	15
純資産合計	18,339	21,365
負債純資産合計	78,089	78,807



■ 資産の部

当事業年度末における当社の総資産は、売掛金や現預金が減少したことなどにより、前事業年度末に比べて7億1800万円減少し、780億8900万円になりました。

■ 負債の部

負債は、借入金やリース債務が増加したことなどにより、前事業年度末に比べ23億7000万円増加し、597億4900万円になりました。

■ 純資産の部

純資産は、利益剰余金の減少などにより、前事業年度末に比べ30億2600万円減少し、183億3900万円となりました。

会社概要 (2015年3月31日現在)

●社名	株式会社ミスターマックス
●創業	1925年10月
●設立	1950年12月
●資本金	10,229百万円
●従業員数	791名
●本部所在地	〒812-0064 福岡市東区松田一丁目5番7号 電話 092-623-1111 (代表) http://www.mrmax.co.jp/

役員状況 (2015年3月31日現在)

役名	氏名	職名
代表取締役社長	平野能章	最高経営責任者(CEO)兼最高執行責任者(COO)
取締役執行役員	小田康德	管理本部長
取締役執行役員	中野英一	開発本部長
取締役執行役員	内座優典	商品本部長
取締役執行役員	吉田康彦	社長室長
常勤監査役	末國伸一	
監査役	古屋泰生	
監査役	多川一成	

株式の状況 (2015年3月31日現在)

●会社が発行する株式の総数	80,000,000株
●発行済株式の総数	39,611,134株
(注) 当期中の増減はありません。	
●1単元の株式の数	100株
●株主数	9,105名
●大株主の状況	

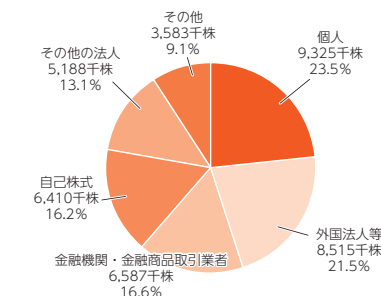
単位：千株

株主名	持株数
ヒラノマネージメントビーヴィー 有限会社 Waiz Holdings	6,435
ミスターマックス取引先持株会	2,778
MrMax社員持株会	2,023
株式会社福岡銀行	1,547
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,390
平野能章	1,075
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	801
平野耕司	763
BANK LOMBARD ODIER AND CO LTD GENEVA	750

(注) 1. 株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

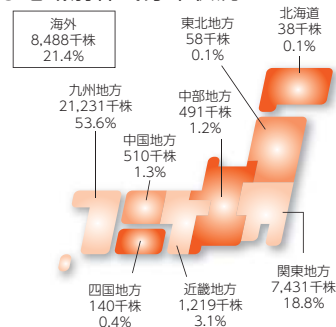
2. 当社は自己株式6,410千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

●所有者別株式分布状況



(注) 「その他」には、左表の「ミスターマックス取引先持株会」や「MrMax社員持株会」が含まれています。

●地域別株式分布状況



株式に関するメモ

事業年度	4月1日～翌3月31日
配当金基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	6月
株主名簿管理人及び特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所、福岡証券取引所
公告方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.mrmax.co.jp/ ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

株式事務手続きについて

住所変更、配当金の振込先指定、単元未満株式の買取・買増請求その他のお問い合わせ先は、次のとおりとなっております。

■証券会社等の口座に記録された株式に関するお問い合わせ先

お取引のある証券会社等へお問合せください。

■特別口座に記録された株式に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社(特別口座管理機関)へお問合せください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

※未払い配当金について

未払い配当金につきましては、上記いずれの場合も当社株主名簿管理人の三菱UFJ信託銀行株式会社へお問合せください。



このパンフレットを印刷・製本する際の電力(200kWh)は、グリーン電力(自然エネルギー)でまかなわれています。自然エネルギーによる発電は、発電ときにCO₂を発生せず、また化石燃料による発電と異なり再生可能であるため、環境への負荷が小さいエネルギーです。



植物油インキは、生分解性があり、環境負荷が高い有機溶剤の排出量も少なく、環境に優しい原材料を使用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザイン文字を採用しています。